

# 大豆情報 第4号



JAとнами野HP

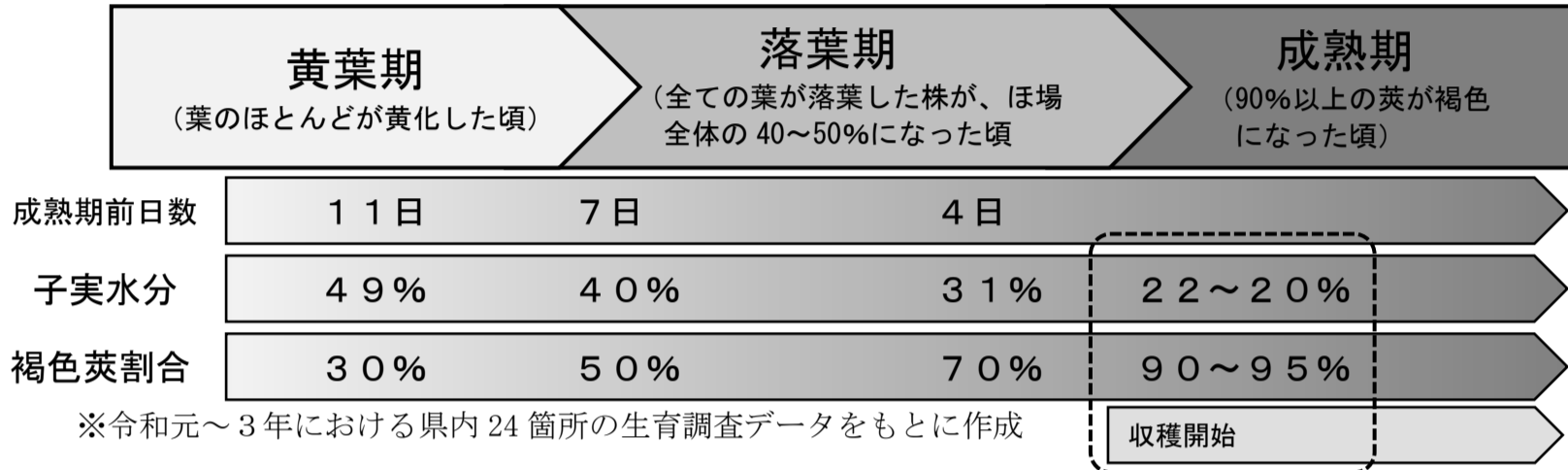
令和5年9月28日  
JAとнами野米作改良対策本部  
とнами野農業協同組合  
砺波農林振興センター

- 本年の大豆の成熟は例年よりも遅く、黄葉もやや遅くなっています。
- 収穫までに青立ち株や大きな雑草を抜き取り、汚損粒の発生を防止しましょう。
- 成熟状況を十分確認し、適期収穫に努めましょう。

## 1 収穫準備（営農日誌p104、106参照）

- ・黄葉期から成熟期を予測し、成熟が早いほ場にあわせて作業準備をしましょう。

○「えんれいのそら」における黄葉期以降の子実水分と褐色莢割合の目安



- ・汚損粒発生防止のため、収穫前に青立ち株や大きな雑草を抜き取りましょう。
- ・成熟期に近づいたら子実水分と莢の色を確認し、収穫開始時期を見極めましょう。
- ・ロール式コンケーブは、丸目式コンケーブに比べて脱穀選別部内の茎等の残さが少なくなり、汚損粒の発生低減に有効なので、付け替えをお勧めします。

## 2 収穫作業（営農日誌p104、106参照）

- ・莢の90%以上が褐色になった頃（子実水分20%程度になった頃）から収穫を始めましょう。
- ・刈遅れは収穫ロスとしわ粒発生による外観品質の低下につながるため、適期に収穫しましょう。
- ・コンバインの脱穀部や排出部のつまりを防ぐため、収穫作業は午前10時~午後4時の湿度が低く乾燥した時間帯に行いましょう。
- ・土のかき込みによる汚損粒の発生を防止するため、刈取り高さは地際から10cm程度にしましょう。
- ・ヘッドロスを少なくするため、コンバイン作業は毎秒0.4~0.8mの走行速度で行いましょう。
- ・倒伏株は向かい刈りを基本に収穫しましょう。
- ・適切な服装と保護具の着用により、事故やケガのない安全な作業に努めましょう。

★近年、ダイズ黒根腐病等の土壌伝染性病害の罹病株や帰化アサガオ類等の難防除雑草の発生が管内各地で見られます。これらのさらなる拡大を防止するため、発生ほ場は収穫の順番を後回しにしましょう。また、発生ほ場での作業後は機械の足回り等を洗浄して下さい。

## 3 乾燥作業（営農日誌p104、106参照）

- ・皮切れ粒やしわ粒の発生を防ぐため、乾燥温度は外気温+5℃以内としましょう。また、子実水分は13%未満に仕上げましょう。
- ・JAの大豆共同乾燥調製施設の利用については、別途お知らせします。

○お問い合わせ先 砺波農林振興センター 農業普及課 砺波班 32-8113  
とнами野農業協同組合 営農部 生産企画課 32-8619 (einoubu@ja-tonamino.or.jp)

JA支店名	電話番号	JA支店名	電話番号	JA施設名	電話番号
中央支店	32-3107	庄東支店	37-0047	稲種センター	82-0117
庄西支店	33-4130	福野支店	22-3018	農業機械センター	58-5520
北部支店	32-2754	井波中央支店	82-1552	資材配送センター あぐり館	32-5440